

# 一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

# 会報

# JASC

- 1◎巻頭言
- 2◎令和2年度 支部代表者会議・総会について
- 3◎研修委員会
- 4◎認定委員会//学会誌作成委員会//調査研究委員会
- 5◎広報委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報
- 6◎支部のキラリコーナー
- 7◎【京都府支部】—支部活動報告—//災害被災者支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//編集後記

## 第63号

### 巻頭言 私と教育相談



広報委員会委員長 山本 健治

### good enough mother

— いい・加減な母親 —

以前、朝刊に保育現場に詳しい今井和子さんの『子どもとことばの世界』から子どもの言葉を取り上げ紹介されていました。(以下、原文のまま)

—小さな子どもの言葉がいざなってくれる世界がある。飛行機雲を見上げて「ひこうきが、お空にらくがきしている！」夏の日に朝顔を見て「あさがあってどうして朝だけさくの。ひるまになるとちいさくなっちゃうよ。早起きしたからおひるねしてるの」

いずれも口にしたのは3歳児である。心の対象と一つになっている姿が、詩人と共通しているように思えてならないと。〈以下略〉—

文中で『心の対象と一つになっている姿』と指摘しているように、子どもたちの純粋な心から発された言葉に、私たち大人は心が洗われる気がします。もちろん、この子たちがこの気持ちのまま成長するわけではありません。では、どう向き合えばよいのでしょうか。

ウィニコット(D.W.Winnicott)、は子どものメンタルヘルスや順調な発育にとって、もっとも好ましい影響を与える母親のイメージについて『good enough mother (ほど良い母親)』という概念を提唱しています。ではこの「ほど良い母親」という言葉をどう解釈すればよいのでしょうか。精神科医の牧さんは、著書の中でこれを(いい・加減な母親)と訳した方がいいのではないかと提唱しています。あえて、(いい)と(加減な)の間に(・)を挿入しています。すなわち、子育てがうまくできる(いい子育て)とは、母親自身が無理をして子どもに余計な負荷をかけ過ぎない(加減のある)ことが重要ではないかと主張しています。ほどほどに子どもに愛情・保護を与えてほどほどの世話や関わりができていれば、それで十分ではないかということです。そしてこのことは私たち教員のかかわりにも当てはまると思われます。子どもの成長を信じ、緩やかにその可能性を引き延ばすことに努めてみませんか。

## 令和2年度 支部代表者会議・ 総会について

令和2年(2020年)8月7日にオンライン会議により開催しました。コロナ感染拡大の影響を避けるため、参加者の安全安心の確保のため、対面の会議をやめることにしました。

例年なら、総会は翌日の全国大会時にありますが、大会が来年度に延期となりました。そこで、この支部代表者会議は、会則第21条(自然災害等の影響により総会を開催できない場合は、…支部代表者会の議決を持って総会の議決に替えることができる)により、総会を兼ねています。会議には、全国の理事長を含む支部代表者等36名が参加しました。

主な概要をご紹介します。

1. 藤原忠雄副会長から、広島長崎の原爆や自然災害等の犠牲者の方々への哀悼の意を表して黙祷のお願いがありました。黙とうの後、開会の言葉がありました。
2. 栗原慎二会長から、被災した地域への支援の大切さ、本学会に期待される役割の重要性、公益法人申請の状況などの説明がありました。
3. 春日井敏之副会長から、一般社団法人日本学校教育相談学会の理事長に選任された報告と挨拶がありました。
4. 議長に、渡辺美貴宮城県支部理事長(昨年度第31回総会主管支部)が選出されました。
5. 令和元年度の事業報告・決算報告・会計監査が承認されました。
  - ・梅川康治事務局長から事業報告がありました。
  - ・新入会員増加対策委員会は、役員会全体で取り組むため、元年度で終了しました。
  - ・公益法人の認可申請を提出しましたが、認可が遅れています。
  - ・免許更新講習事業は準備が進んでいます。
  - ・会員専用のHPは、検討の結果止めました。
  - ・倫理委員会設立は、会則改正で明記します。
  - ・田中充事務局長から、4,278,333円の残高となる決算報告がありました。
  - ・鈴木教夫監事から、会計報告書類は適正で正確であるとの監査報告がありました。
6. 会則改正について、承認されました。
  - ・倫理規定に、「6. 倫理委員会は会長副会長が必要に応じて開設する。委員は会長が委嘱

する。委員会は諮問内容に関して会長に報告する。」を追記。

- ・会計監査第15条「本学会に会計監査を置く。本学会の会計監査は社団法人の監事が兼ねる。会計監査の任期は監事任期に準ずる。ただし、再任は妨げない。」に修正。
7. 令和2年度の事業計画案・予算案が承認されました。主な点をお知らせします。
    - ・梅川事務局長から事業計画案、田中事務局長から予算案の説明がありました。
    - ・予算案については、根本事務局長から補足説明がありました。
    - ・予算案の中の支部補助金について、自動的に各支部に研修費補助が送金される形式から、申請があった支部のみに送金する形式になっています。これは以前より変更しています。そのため予算と決算では金額に違いが出ます。
    - ・調査研究委員会は、「令和3年度に調査研究について報告する予定」とのこと。
    - ・研修委員会から、「第31回中央研修会は令和3年1月9日(土)にオンライン研修にて実施する予定。現在詳細を検討中であり、後日に案内を出す予定」とのこと。
    - ・認定委員会から、「令和2年度の更新事業は中止」とのこと。
    - ・広報委員会から、「会報で、支部で活躍している方を紹介していく予定」とのこと。
    - ・学会誌作成委員会から、「論文審査の方法等について検討していく」とのこと。
    - ・学会賞・小泉英二記念賞選考委員会から、受賞者候補の選出は来年度に持ち越すとのこと。
    - ・災害被災者支援委員会は、「支援を継続的に実施する」とのこと。
    - ・免許更新講習委員会は、「免許更新講習の実施準備は継続している」とのこと。
    - ・公益法人運営委員会は、「公益法人化委員会を名称変更して活動する」とのこと。
    - ・事務局から、「会員専用メール配信や永年会員制度の検討をする。オンライン会議の活用をする」とのこと。
  8. メール配信とメールリストについて
    - ・山本健治広報委員長から、「学会メール配信にかかる依頼先の選定について、比較検討の結果Blastmailが最適であると結論した」との推薦があり、承認されました。

- ・梅川事務局長から「学会の活動や研修案内など、連絡や宣伝方法として、会報等の印刷物やHP掲載以外にメール配信を加えることで、案内のスピード化や経費削減を図りたい。そのため、配信希望をする会員のメールリスト作成を支部理事長・事務局長にお願いします。支部でまとめていただき、本部事務局にリストを送付する手はずです。詳細は、後日に支部理事長・事務局長に連絡します。全会員には会報等でお知らせします。」とのこと。
  - ・「学会のHPと各支部のHPのリンクについて、希望する支部は、事務局まで連絡してください。」とのこと。
9. 資格更新認定の中止について
- ・向江幸洋認定委員会副委員長から「令和2年度の更新事業は中止。学校カウンセラー資格保持者には、資格更新年度を1年繰り延べるなど、すでに連絡済み。新規認定は予定通り実施します。」とのこと。
10. 名誉会員推薦について
- ・東勢津子会員（石川県支部より推薦）の名誉会員推薦が承認されました。
11. 第33回総会・研究大会
- ・向江幸洋兵庫支部理事長より、「来年度8月初旬に実施予定。今後のコロナ感染の状況で判断するため、大会内容については柔軟な対応を検討中」とのこと。
12. 第34回総会・研究大会
- ・柴一彌栃木県支部理事長より、「再来年に実施をしたい」とのこと。承認される。
13. 青木美穂子副会長から、励ましの言葉の後、閉会の言葉がありました。
14. ブロック代表（全国理事）
- ・7ブロック内の支部代表者の互選により、ブロック代表が選出・承認されました。
- 北海道・東北ブロック代表  
小玉有子 青森県支部理事長
- 北関東・山梨ブロック代表  
柴一彌 栃木県支部理事長
- 南関東・新潟ブロック代表  
麓泰介 神奈川県支部理事長
- 東海ブロック代表  
松尾茂 愛知県支部理事長
- 近畿・石川ブロック代表  
向江幸洋 兵庫支部理事長

中国・四国ブロック代表  
岡林登志郎 高知県支部理事長

九州・沖縄ブロック代表  
坂井俊介 福岡市支部理事長

- ・ブロック代表は、全国災害対策委員会の委員を兼ねます。
  - ・糟谷恭子事務局次長から「来年度が会長副会長等の改選の年になるので、ブロック代表は選考委員会委員も兼ねます。」とのこと。
15. 全国災害対策委員会
- ・災害被災者支援委員会の委員とブロック代表全国理事で委員会を開催しました。
  - ・今回は、会長副会長等も参加して意見交流を行いました。
  - ・コロナ感染拡大の影響もあり、被災地への派遣が難しい状況にある。今こそ本学会ができる支援があるはず。各支部主催のオンライン研修などの紹介も支援になる。コロナ感染に伴う不登校や家庭状況の実態調査やレベルに応じた支援策を作成などはどうか。先生方を支える支援が大切。シンポジウム等で提言していくことなど、様々な意見が出ました。今後も検討していくとのこと。（文責：事務局長 梅川 康治）



## 研修委員会

例年ですとこの時期には、1月の中央研修会の御案内を掲載し、送らせていただいていたと思います。今年度はコロナ禍の中で、基本的に例年同様の中央研修会は行わないことになりました。

この8月の夏季ワークショップでお願いしていた講師の先生方に、そのまま中央研修会にスライドしていただき準備を進めていたところでしたので大変残念です。

例年通りの中央研修会は中止としましたが、それに代わるものをオンライン等で企画できないか模索しているところです。いろいろ制約のある中ですが、会員のみなさまに時宜にかなった研修を御提供したいという思いには大きなものがあります。

実施できそうな研修が企画できた場合には、学会のホームページ等でご案内させていただきますのでホームページに目を通していただければありがたいです。よろしくお願いいたします。

（文責：研修委員長 田邊 昭雄）

## 認定委員会

### ○今年度の学校カウンセラー資格更新認定の中止について

既に学校カウンセラーの皆様にはお知らせいたしました通り、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、全国大会をはじめ各支部での研修会等も中止となり、更新ポイント取得が困難になっている状況に鑑み、今年度の学校カウンセラー資格更新認定を中止することといたしました。

これに伴い、すべての学校カウンセラーの資格更新年度を1年繰り延べます。今後1年ずつ更新年度がずれていきますので、ご自身の更新年度をご確認をお願いいたします。

また、証明が必要な場合、登録証明書の有効期限よりも1年間さらに有効である旨の証明書を発行いたしますので、認定委員会までご連絡をお願いいたします。

### ○学校カウンセラースーパーバイザーの周知について

昨年度、学校カウンセラースーパーバイザーの資格を更新されました74名の皆様の名簿を今回の会報誌に同封いたしました。

スーパービジョンは、気づかない自分の癖や偏りによる弊害を防ぐ上で必要ですし、辛いときの心の支えとなったり、専門的知見や洞察力を高め感性を養うなど資質向上に役立ったりと効果は大きいです。学校カウンセラーの皆様に限らず、広く会員の皆様にも活用していただければ幸いです。学校カウンセラースーパーバイザーへの連絡方法や得意分野等の情報は、各支部にお送りしてありますので支部へお問い合わせいただくか、直接、認定委員会へお問い合わせください。

\*現時点(9月1日)では新規の学校カウンセラー及び学校カウンセラースーパーバイザーの資格認定は実施予定ですが、今後の社会状況によって変更の可能性あります。その際は、申請者に個別にご連絡をさせていただきます。

(文責：認定委員長 築瀬のり子)



## 学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては、日頃より学会誌作成委員会の活動にご理解とご支援を賜りありがとうございます。

学会誌への投稿論文の審査は、9名の委員のほか審査協力委員として多くの方にご協力をいただいております。協力委員のお名前は、学会誌の巻末に掲載しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

学会誌『学校教育相談研究』への投稿は、毎年8月末(8月の全国大会での発表者は10月末)が締切となっておりますが、学会ホームページでお知らせしている通り、今年度に限りすべての方の投稿締切を10月末までとしています。全国研究大会が延期されたためか、今年度の投稿本数は例年に比べ大変少なくなっています。さらに多くの皆様の投稿をお待ちしています。

さて、令和4年6月発行予定の学会誌第32号への投稿論文から、審査方法を改訂することになりました。論文の水準を維持した上で採択率を上げることをねらいとして、次のように改訂いたします。

まず、審査結果が「掲載する」または「修正の上掲載する」(以下「掲載」と記します)とならなかったすべての論文について「修正の上再審査する」とし、委員会からの助言を基に修正していただき再審査します。さらに、再審査でも「掲載」とならなかった場合は「修正の上再々審査する」とし、委員会からの助言を基に修正していただき再々審査します。残念ながら、再々審査でも「掲載」とならなかった場合は審査終了となります。この手順により論文をブラッシュアップし、採択論文の本数が増加することを期待しています。

なお、今年度10月末締切の論文については、従来通りの方法で審査を進めてまいります。

(文責：学会誌作成委員長 藤井 和郎)

## 調査研究委員会

令和2年度になって早々に、新型コロナウイルスの影響を受けた活動が続いていますが、調査研究委員会は、ZoomによるWeb会議により活動を進めています。

61号でもお知らせしたように、取り組んでいることは以下の通りです。

- (1) 調査研究してきたことを報告書にまとめて学会誌に投稿する。  
 (2) 調査研究してきたことを論文にまとめて学会誌に投稿する。  
 (3) 全国大会（兵庫県大会）において、自主シンポジウムを開き「被災地支援をする学校関係者への支援の在り方」について、阪神淡路大震災、東日本大震災などと関わらせながら発表する。

(1)の報告書については、原稿の最終的な校正に入っているところです。次回の学会誌に掲載していただけるように進めています。  
 (2)の論文作成については、3本の論文に分担しながら、投稿できるように取組中です。  
 (3)の自主シンポジウムは、今年度の開催予定であった兵庫県大会が延期になったので、次年度の兵庫県大会で発表できるように準備を進めています。  
 コロナ禍の中でも、Web会議を利用しながら、上記のことについて取り組んでいきたいと思っております。  
 （文責：調査研究委員長 木村 正男）

## 広報委員会

○会報紙面を一部リニューアルしました！

平成28年3月発行の会報49号から連載されてきました「先輩に聞く（私と教育相談）」は前号（第62号）を持ちまして一旦終了とさせていただきます。新たに「支部のキラリコーナー」を開設することになりました。これまで多くの先輩会員から学校教育相談に係る貴重なお話を聞かせていただいたこと、改めて感謝申し上げます。

さて、新企画「支部のキラリコーナー」では、各支部で現在活躍されている先生方のキラリと輝く取り組みを紹介していく予定です。私たちの日々の教育活動におおいに参考にさせていただけるのではないかと期待しています。キラリと輝く取組をされている会員がおられましたら自薦他薦を問いません、是非、広報委員会にご一報ください。

○学会メール配信の準備を進めています！

8月7日、第32回支部代表者会・総会において、学会のメール配信が承認されました。今後、各支部でメール配信希望者のメールアドレスを集約し、本部事務局に送付することになります。詳細は、改めて本部事務局より連絡があります。しばらくお待ちください。

○各支部のHPと学会HPのリンクについて

学会HPでは、各支のHPへリンクできるようになっています。リンクの手続きを希望される支部は、まずは本部事務局に連絡をしてください。但し、費用は支部負担となります。

（文責：広報委員長 山本 健治）

## ガイダンスカウンセラー関連情報

### 1. 公認心理師試験学習会

新型コロナウイルスの影響で「現任者講習会」は実施できませんが、12月20日第3回公認心理師試験に向けて下記学習会を実施します。

趣旨 当協議会では、教育分野に強い公認心理師の誕生と活躍を支援し、学校においては公認心理師を有する方はガイダンスカウンセラーを併せもって活躍していただきたいと考えています。そこで、教育の分野で活躍されているガイダンスカウンセラーならびに構成団体有資格者向けに、直前対策の学習の機会（動画配信）を計画しました。

視聴期間 2020年10月15日（木）～  
12月7日（月）

方 法 視聴期間中に、お好みの動画をいつでも何度でもご覧いただくことができます。

定 員 200名

参加費 (1) ガイダンスカウンセラーならびに構成団体資格の有資格者 24,000円  
（構成団体資格：学校カウンセラー、学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、認定カウンセラー、臨床発達心理士）

(2) 一般 36,000円

内 容 各講義領域に依りて、動画のブループリントを踏まえて解説し、過去問を用いて解説を加え、必要な知識を確認します。

### 2. 最新の情報

「ソクラテスのたまごーオンライン相談事業ー」からのガイダンスカウンセラー派遣の要請を受け入れることになり、その人選をしています。関心のある方は是非応募してください。

以上詳しくはJSCAのHPで確認してください。

（文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 日本学校教育相談学会名誉会員・ガイダンスカウンセラー 加勇田修士）

## ☆支部のキラリ!☆

今回より、各支部で現在活躍されている先生方のキラリと輝く取組を紹介していく企画を始めました。

キラリと輝く取組をされている会員がおられましたら自薦他薦を問いません。是非、広報委員会にご紹介ください。

### 「地方のサークルの取り組み」

栃木県支部理事 松本 直美

「しもつけ学校カウンセリング学習会（しもつけ School Counseling Circle）」という支え合い・学び合いサークルを教員の仲間とともに立ち上げて、ちょうど10周年を迎えています。定例学習会や公開講座などの活動は70回に迫り、延べ1300人超の参加者を数え、十数名でスタートした会員は県外も含めて130名程になっています。今では、栃木県支部とメンバーもリンクし、研修会の企画・協力、後援・共催などで連携し、互恵的な関係になっています。本学会の第30回研究大会東京大会のラウンドテーブルでも紹介させていただいた地方のサークル「しもつけ SCC」の取り組みや歩みを紹介させていただきます。

#### ○目的

学校現場などで児童・生徒への指導や援助に悩み苦しむ仲間が集い、学校カウンセリングについて学び合い、支え合い、互いを援助資源として活かす。

#### ○構成メンバー

学級担任、特別支援学級担任、通級指導担当、生徒指導主任、教育相談担当、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、管理職、教育相談員、スクールカウンセラー、大学教員、相談機関・医療・福祉・司法関係者など

#### ○主な活動・研修内容

大学・専門機関の研究者・実践者による講話や演習、会員の特性を活かし合った実践報告・ラウンドテーブル・ワークショップなど

・個と集団のアセスメントツール、グループアプロ

ーチのツールを活用した仲間づくりや個別援助

・個別カウンセリングツールを活用した教育相談  
・発達障がいやLDの理解と対応など、主に通常の学級における特別支援教育

・不登校・不適応、いじめ、心の問題、非社会的・反社会的行動の予防や改善のためのプログラム、校内体制づくり、チーム援助、個別援助

ほかに、ニーズに応じた専門性のある会員によるケース会議の開催、有資格会員による出前講座・校内研修のサポート、資格取得や研究大会での発表のサポート

#### ○特色

・入会金・年会費がなくて入会しているだけで経費はかからず、1回参加すること500円を出し合う

・学習会などの情報をメールのみで連絡

・参加は全くの自由意思で、無理な勧誘はない

・日本カウンセリング学会理事長の田上不二夫先生ほか数名のエキスパートを顧問としている

・そのつながりで中央の講師も多く、そのサポートを受け、そうした先生方にも毎年のようにご指導いただける

・学習会・講座の後には、講師を交えての懇親会を設定し、さらに学びや結びつきを深めている

10年間、コツコツと活動を重ね、人のつながりを紡いできたことで、会員それぞれ軽重はあるものの、教育相談実践における学び合い、支え合いの効果を実感しています。ほかにも、以下のような成果や効果が現れてきています。

○他学会を含め発表経験のあるメンバーが中心となり、参加経験のない実践者も巻き込み、研究大会（第30回東京大会ラウンドテーブル、第31回宮城大会自主シンポジウム）に参加した。（兵庫大会、栃木大会と続くはずだったが・・・）

○運営者が参加した学会中央研修等の講師を地方サークルの公開講座等に招聘することができた。

○支部研修会の一つである「とちぎ教育相談カフェ」（公開形式で誰でも参加することができ、気軽に飲み物を片手に、学校教育相談に関わるテーマについて、語り合い、学び合う場）のモデルとなった。

○わずかながらも学会の広報・会員勧誘に、資格取得希望者の後押しやサポートに貢献できている。

○若手・中堅教員が学校教育相談と出会い、必要感を実感する機会の設定ができている。

現在コロナ禍で、活動は停止状態です。ある程度の安全が確保できたら、また歩み始めたいと思います。本会にも、モデルとなる他県の研究会等があって、今日があります。全国の同じようなサークル・勉強会とも連携ができればと考えています。「しもつけSOC」についてのご意見・お問合せ・資料提供依頼などについては、〈メール：m.fam@d8.dion.ne.jp 松本〉までお願いします。(担当：小川 正人)



## 【京都府支部】一支部活動報告一

### 1. この間の支部活動、研修会

京都府支部は、40名程の会員で年間3回の研修会・交流会を行っています。研修会には、毎回15名程の参加があり、この間、現職教員・院生も含めて教職大学院生の入会や研修会参加も増えて、その発想や実践報告に刺激を受けています。ここでは、コロナ感染拡大のもと、オンライン（Zoom）で行われた直近の研修・交流会の内容、議論について紹介します。

### 2. コロナ感染拡大と子どもの生活、学校の役割 —2020年7月12日研修・交流会—

#### (1) 1学期の子どもの生活、様子について

・再登校を楽しみにしていた子どもが多かったが、緊張気味の子どももいた。・対面することによって、子どもどうしが元気をもらっている。・分散登校のため友達ができなかったとスタートでつまずいている子どもがいた。・小学校1年生で登校しぶりの子どもが増えている。・体力が落ちているためか、よく転んで保健室に来る子どもが増えた。・小学校で毎日6時間授業、中学校では7時間授業の学校もあり、子どもはよく頑張っているが疲れている。・マスクは表情が読めなくて、声も通らないので、子どもどうしのコミュニケーションに支障が出ている。・不登校の子どもが登校したが、1か月でまた不登校になった。・特に小学1年と中学1年が、新しい学校、環境になじみにくい。・教科指導が中心で、学活も授業に、行事も中止になり、子どものモチベーションが下がって体調も崩している。・中学3年は進路、部活、行事などの先が見えなくて、不安を持っている。・保育園・幼稚園や小学校低学年など、マスクして距離を取るという生活は、子どもの成長、発達にとっても支障がある。

#### (2) 1学期の教師、学校の様子について

・オンライン授業は、事前の準備も含めて、パソコン等の画面を見ている時間が多く目が疲れる。・オンライン授業への対応や家庭連絡等に加えて、再登校後はコロナ感染予防対策に追われ、かなり疲れている。・ICTの活用にたけた若手教師もいて、教えてもらいながら同僚性が高まった。・マスクでの授業や学活はしんどくて、自分の声が出なくなった。・コロナ感染予防対応の観点から、文部科学省も少人数学級に言及しており、実現の好機ではないか。・働き方改革の取り組みとコロナ感染予防対応、行事などの中止などが重なって、サラリーマン化する教師の傾向も生まれている。・オンラインと対面と両方の授業を経験したが、オンラインでは子どもどうしの共感が生まれにくく、対面の方が双方向で議論などにも深まりが生まれる。・教師のメンタルヘルスの視点から、お互いにしんどいことや気になること等を出し合える、相談できる体制づくりが必要である。

#### (3) 子どもたちが学校に通うことの意味を問い直す

一斉休校の期間は、改めて「子どもたちが学校に通うこと」の意味を捉え直す重要な機会となった。ICTの活用は、本来対面授業の補完的なツールとして意味があるのではないか。そして、学校のもつ大切な機能、子どもが学校に通ってくることについて、次のような意味があるのではないか。

①子どもたちが課題を探究し深め合う協同の学びの場、②子どもたちが出会いと交流によってつくっていく協働の生活の場、③家族の仕事や生活を支える場、④子どもにとって安心、安全なセーフティネットの場、⑤どんな子どももかけがえのない存在として受け入れてもらえるケアの場である。

長い休校期間と夏休みを通して、家庭で充電できている子どもばかりではない。あまり関わってもらえなかったり、逆に家族の一員として役割を果たしてきた「がんばり屋さん」等を含めて、例年以上に2学期の早くに息切れする子どもたちが増えることが予測される。

(文責：京都府支部理事長 春日井敏之)



## 災害被災者支援委員会報告

第2回全国災害対策委員会が、8月7日に、オンライン会議の形で行われ、まず、九州・沖縄ブロック代表の坂井俊介先生から、九州地方の豪雨災害の状況をご報告いただきました。該当地区の教育委員会に連絡して情報を得たとのことですが、学会としての具体的な支援ということになると、現地は復興に全力を挙げている段階で、コロナの感染拡大防止のために、今のところ外部の応援は受け入れられない現状とのことでした。

また、北海道・東北ブロック代表の畠山喜代志先生からは、宮城県の被災地を4回に渡って訪問した様子をお話しいただきました。

次に、犬塚支援委員から、この度の新型コロナウイルスによる生活・家庭・社会の変化は大災害と言えないだろうか。東日本で伺った家庭の変化・家庭の崩壊、これは様々な職種への営業規制、失業等で今全国の学校の多くの子どもたちの家庭の中に起きていることである。従って、これは本部の「調査研究委員会」による調査から始まり、学会を上げて本腰を入れて対応・支援を考える必要があると提起がなされました。

協議でも、本部役員の先生方からも建設的なご意見をいただき、動き出した現状です。

今回オンラインという形での会議を経験しましたが、こうしたことにも慣れておく必要があると改めて思いました。

(文責：災害被災者支援委員会委員長 砥柄 敬三)

## 会長コーナー

### コロナ下での学校教育相談の役割

コロナ下での学校教育は、子供たちに、家庭学習の増加、授業時間の増加、楽しい学校行事等のカットなどの負担を強いています。教育相談にはその負の影響を最大限抑え込むことが求められています。どうしたらいいのでしょうか。

#### 子どもの成長と人間関係

パーソナリティや社会性は、基本的に人間関係の中で養われます。愛され、受け入れられ、共感される中で、人は安定したパーソナリティを築いていきます。そして、そうした関係にある先生や友だち達との多様な活動の中で、スキルや価値観などの社会性を身につけていきます。コロナは、これらの土台

となる人間関係を学校という場から奪っていきます。成長があるから適応が可能

学校における人間関係の量が減少すれば、質の低下も避けられません。それはパーソナリティと社会性の発達に影響を落とします。また、人間関係の質が低くなれば、「一緒に頑張る」ことは難しくなり、「一人で頑張る」しかなくなります。そこに冒頭のような負担が加われば、深刻な適応上の問題が生じることは明らかです。

#### ワクワクする時間の共有を

こうした成長と適応の危機にあって求められることは、愛され、受け入れられ、共感されること、つまり、「感情の共有」です。うれしい感情、達成感、ときどき、ときには悲しみやしんどさを共有することで、人は繋がりを実感します。

今こそ学校にはそれが必要です。ソーシャルディスタンスや対話の制限など、現実的な制約が大きい状態が今後も続くでしょう。だからこそ、このような教育相談的視点になった教育実践の創造が求められています。(文責：会長 栗原 慎二)

## 編集後記

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、本学会も新たな会の在り方を模索し始めました。来年早々に予定されている中央研修会もその1つだと言えます。今後は従来のような対面形式だけでなくこのようリモートでの研修会も増えていくと思われます。しかし、リモートでの参加が難しいという会員の方々もまだまだ多くいらっしゃると思います。この方々にいかに情報発信し、研修の機会を確保するかということが喫緊の課題ではないでしょうか。今後、早急にこの解決策を模索しなければなりません。

(文責：広報委員長 山本 健治)

一般社団法人 日本学校教育相談学会会報  
第63号

令和2年11月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会  
会長 栗原 慎二

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会  
広報委員会 委員長 山本 健治

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>